



㈱エスト

〒502-0852 岐阜県岐阜市南蝉1-56
Tel.058-297-1011 Fax.058-297-1012
HP www.est-926.com

ビジネスインタビュー ヒットの兆し

Made in Gifu



Made in Gifuの

「おしやれマスク」は 内職「ママ職人」たちが つくっています！



2003年より岐阜市内にて寝具、インテリア製品の製造・販売業を営む㈱エスト。ここで手掛ける「おしやれマスク」が今、注目を集めています。このマスクの大きな特徴は、生地を裁断から縫製、仕上げまでの全ての製造工程を岐阜市や近郊の子育てママたちの「内職」が主力となっており手掛けられていることです。そこには「地域が元気になるように」ママたちの雇用を積極的に進める、社長の古田明広さんの強い想いが溢れています。



㈱エスト 社長
古田明広 さん

「マスク」にはニーズがある！

㈱エストは、創業以来国内の大手衣料スーパーを中心に、順調に取引を進めてきました。しかし、いつしか古田さんは「今のように下請けだけに頼っていては、いずれ衰退する」と、将来を危惧するようになっていました。そして2010年、生き残りを賭けて「オリジナルブランド」を立ち上げることを決意。扱う商品は「小物雑貨」に絞り、早速商品を考案・製作するスタッフの募集をはじめることになりました。—そこに「運命の出会い」が待っていました。

「縫える」を仕事に！ 内職できる「ママ職人」急募

「デザイナー志望の女性が面接にきました。話しているうちに、実は『縫製』の方が得意だということがわかりました。どのようなものをつくるのかと尋ねると『子どもから使い捨てのマスクはかわいくないから嫌だ』と言われ、かわいいマスクをつくって大喜びされた」とのことでした。今では、周りの人たちからもつくってほしいと頼まれていくと聞いた古田さんは—
「これだ！と思いました」
すぐにこの女性を採用し、数名で子ども用の「かわいいマスク」の製造を開始。試しに大手通販サイトで販売してみました。すると、あつとい

「縫える」を仕事に！ 内職できる「ママ職人」急募

う間に反響があり現状のスタッフでは生産に対応しきれなくなりました。その時思い出したのが、マスク製作の発端となった面接でした。岐阜は元々縫製が盛んな土地なので、このあたりには「働きに出る時間はないけれど、縫うことが得意」な女性たちが、まだまだたくさんいるんじゃないかと—
そこで「ママさん応援」をキャッチコピーに、マスク製造の「内職」さんを募集したところ、思った通り多くの女性たちが応募してきました。

「かわいい！」マスク 人気沸騰

一気に内職「ママ職人」が増え、マスク事業は益々活気づいてきました。そんな中、若い女性社員たちから「私たちも使いたくなるような、かわいいマスクをつくってほしい」との声が上がり出し、次はその女性社員たちのアイデアを取り入れてみることに。

「これだ！」と思いました

多くの方にマスク製造に関わってほしい」と、臨時募集を続けています。そこには「雇用を通して地域貢献をしたい」との強い思いがあります。「応募してきた内職さんのなかには、かつて岐阜の縫製工場で腕をふるった60代以上のいわゆる熟練工の方もみえました。この方を採用するときに『これは岐阜アパレルの優れた技術を活かし、育てるチャンスなのではないか』と感じました」

「縫える」を仕事に！ 内職できる「ママ職人」急募

そこで古田さんは「腕のある内職さんや経験者が、新たに加わる内職さんにコツや技を教える」という継承システムを作りたいと、今年4月に内職さんを集めて講習会を開きました。
「それがとても好評で、皆さんが実力も自信もつけていきました」
確かな手ごたえを感じ「今後も継続して開催していきたい」と、意気込みます。

すると、出来上がったマスクはまるでブティックで洋服を選ぶかのような、どれも「かわいい」ラインナップが勢揃いしました。しかもその狙いは大当たりし、瞬く間に大手通販サイトのファッション部門で月間売上ランキング1位を獲得。ファッション雑誌にも取り上げられ一躍注目の人気商品となり、いよいよ大手通販サイトででの販売に加え、待望の自社WEB通販サイトを立ち上げることに。その名も「おしやれマスク専門店 エストクチュール」の誕生です。こうしてマスク事業は急成長。その飛躍を支えたのは、もちろん内職「ママ職人」たちの活躍です。

今、古田さんののもとには多くの内職さんたちから「自分が作ったものが世の中に出ていくことが嬉しい」、『空いた時間に自分のペースで仕事ができ、子どもが帰ってきたとき、お迎えの準備が済んでいる環境で働ける』などのうれしい声が届いています。
「力がついてくれば、何れ独立・創業などを考える人も出てくるでしょう。

独立・創業も応援 「雇用」・「育成」で、地域活性化

現在、内職「ママ職人」たちは30名を超えます。古田さんは「まだまだ



「つくる人たちが喜んで仕事に関わってくれれば、楽しくて、いい商品ができるに決まっています」
そう笑う、古田さんの周りにはまた一人、そしてまた一人笑顔が集まります。